

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聴覚・ろう重複センター楓		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 25日 ~ 2025年 12月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 11月 25日 ~ 2025年 12月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 11日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幅広い年齢層の子どもたちが集まり、関わりが持てる環境 卒業生たちがボランティアとして活動に参加し、交流できる	日頃から年齢や特性などを考慮し、本人に合わせた対応を行うことで、上級生が職員に倣って自然と下級生のサポートをし、それを職員がフォローできる環境や体勢を整えている また、卒業生たちにも定期的にイベントのお知らせをしたり、卒業生同士で情報共有してもらえるよう声掛けをしている	コミュニケーションを大切にし、子ども同士での関わりが持てるような遊びや活動、きっかけを提供する また、職員や卒業生たちが子どもたちにとってのロールモデルであることを理解し、自身の支援を振り返ると共に、職員同士や卒業生、ボランティアも含め相談や共通理解に努める
2	活動や企画の充実さ、子どもたちからの意見や企画案を事業所の活動に取り入れている	平日の短縮授業日や休日に、様々な企画を検討、実施している 季節に合わせた定番イベントから、子どもたちの「行きたい」「やりたい」の提案を受け、実現できるよう計画や準備、十分な職員配置を行っている	目的を持った企画内容を検討し、より充実させる 活動時間に様々な体験をし、経験を深めることができるよう、地域との交流や社会参加の機会を設ける
3	聴覚・ろう重複障害の特性に応じた専門性ある支援に取り組んでいる	手話や口話、身振り、写真カードなど、1人ひとりに合わせた視覚的コミュニケーションを大切にしている また、本人のペースに寄り添った支援を行えるよう努めている	日々の振り返りを丁寧に行い、子どもたちの変化や成長を職員間や保護者、相談員と共有する より専門性を高めるために、内部研修を充実させ、共通認識を持って実践に活かす

	事業所の弱み（※）だと思われる事 ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者やきょうだい同士の交流機会が少ない	保護者会などの開催がなく、交流の機会を設けていない	交流のニーズを把握し、企画立てを検討する また、日頃からコミュニケーションや発達について相談やすい環境、雰囲気作りを行う
2	情報発信の不足さ	利用当日の子どもたちや事業所の様子は、送迎時に対面、または報告メールなどで共有できるが、不参加者への共有が乏しい 公式LINEやInstagramなどSNSの更新頻度も減少している	SNSを活用して、日常やイベント時の取り組みを発信する また、各種マニュアルや避難訓練の実施報告など、面談の機会に改めて周知を行う
3			